

E. 自由記述

本項目は、難聴・言語障害教育の担当者が現在及び将来について感じていること、あるいは意見等を自由に書いてもらうために設けた。重複した内容の記述は文意を損なわない範囲で整理し、以下のように分類した。

<難聴・言語障害学級・教室の将来について>

- ・難聴・言語障害児の指導が、今までの知的・情緒学級に在籍していた児童も含めて行われる感じがする
- ・自閉症や発達遅滞の子どもの受け入れ体制が必要
- ・市町村教育委員会の方針で格差がでる
- ・特別支援教室への移行で、難聴児への指導時間が削られるのではないか
- ・特別支援教室として一括りにする（知的と難聴）のは、課題が多い
- ・特別支援教育が定着するにつれて、通級が増えると予想できるが対応ができない（人数的に）
- ・教室がなくならないようにしてほしい
- ・小規模な市町村での教室は、障害種に関係なく対応できるようにしてほしい
- ・特別支援教室になった場合には、巡回指導、拠点教室が必要
- ・LD等の通級が、法的に明記されて良かった
- ・通級教室の適切なあり方や特別支援教育への行政的な具体的な体制づくりの方向性を聞きたい
- ・特別支援教室への移行は、難聴枠は、別に考えた方がよいと思う（学習能力的に遅れはないので）

<通級制度の課題>

- ・親が送迎できないために指導が受けられない
- ・他校通級の子どもの負担についての検討が必要
- ・通級指導教室は、各学校に必要である
- ・隣接する市の子どもの受け入れが課題
- ・指導希望者の増加

<仕事を進める上での環境整備>

- ・学校から切り離されて運営できると良い
- ・学校管理職の理解が欲しい
- ・管理職や担任の先生への通級システムや指導内容についての理解を広げていく必要性
- ・現場は多忙を極めている
- ・教室の予算がないので、教材も自費で購入している
- ・校内から様々な役割（検査・見立て・指導・研修・情報提供）を求められている

<専門性と研修と人事>

- ・7年で異動の問題
- ・担当者育成と通級の言語・情緒の学級の増設

- ・研修の必要性／定期的な研修の確保が必要
- ・専門性の維持／専門性の低下が目立つ
- ・計画的な人材養成と配置をして欲しい／後継者問題
- ・人材の確保
- ・有資格者（言語聴覚士）が担当する方向がよい
- ・教師の数と質の向上が課題
- ・ことばの教室へのニーズが増えているため、担当者の増員を希望する

<難聴・言語障害に関する指導について>

（難聴）

- ・人工内耳の支援の仕方が分からない
- ・聾学校との連携が必要
- ・難聴学級に在籍している生徒同士の交流が持てない
- ・重度の聴覚障害児が増えてきているので、聾学校との連携が大切になってくる
- ・聴覚障害児の指導要録や内申書の書式の変更が必要（知的障害を伴う子どもの増加）
- ・難聴児の普通高校でのサポートが心配
- ・卒業後の就労状態を知りたい（難聴学級）
- ・将来、自立できるようにさせたい

（言語）

- ・吃音についての指導
- ・構音障害の子どもを教師が指導する意味が分からない（2年目）
- ・構音が治っても、行動面での課題は解決しない

<その他>

- ・通級指導教室は、保護者が相談しやすい場である
- ・保護者のニーズが高まっている
- ・支援籍（埼玉県）
- ・他の保護者への啓発や理解を進めていくこと

回答の中で、多かったのは「研修に対する要求」であり、専門性維持のための研修が必要という意見が多数記述されていた。また、難聴と言語障害に分けてその傾向を見ると、言語障害では、言語障害教育がないがしろにされるのではないかという先行きの不安、人材不足、専門性不足などが多く記述されていた。一方、難聴で回答が多かったのは「中学卒業後の進路に対する不安」であった。また、聾学校との連携が必要であること、集団が必要であることなども記述されていた。

回答内容は、「B-2 指導について」や「C-1 学級・教室の経営上の課題」の内容と重複するものも多くあった。また、研修や制度に関する内容は、平成 13 年に実施された自由記述の内容と大きな変化はなく、解決が難しい課題であるのかも知れない。